

地区復興まちづくり便りへの意見等 (追加分)

■避難路等について

1	馬越地区に避難したが、避難所（津軽石小学校）までの道路が冠水し、竹やぶなどを歩き避難所までたどり着いた。馬越地区から小学校までの避難路を確保してほしい。歩行路で良い（車進入禁止） (60 歳代 男性)
2	年老いた両親との老々家族で高台の移転等は無理と考えて浸水した物置等を改装して移り住んで早や3ヶ月も過ぎました。自分たちは津波の時工業高校に避難しましたが、工業高校からヒロセ電機の方に移動するのに大変苦労したことで、稲荷橋から工業高校経由の広い道路があったらと思っている。JR 高架にした方がいいと思う。 (70 歳代 男性)
3	2～3mの堤防を作り、津波発生時には停電しない回転灯を等間隔に設置し知らせる。津軽石川の水門のように利用できるようにし、短時間に避難できるように考えられませんか。 (40 歳代 女性)

■移転先について

1	稲荷ヶ下と法の脇の間の山を崩し、法の脇地区に盛土する。広い宅地が出来るので、栄町で被災した方々にも宅地を提供できる。 (60 歳代 男性)
2	高台に家を移転する場合、畑になっている土地に木が手入れもなく山のようにになっているので、森林の整備も求めます。赤前地区は、木を切れば高台移転、避難道路が十分可能ではと思います。 (40 歳代 女性)